お知らせ

第１２回 港南区ボランティアフェスティバル

ボランティアグループが大集合！
活動紹介・展示販売会・ステージ発表を行います。
多くの方のご参加をお待ちしています。

日　時：１１月１３日（日）　１２：００～１５：３０
場　所：港南中学校体育館（市営地下鉄港南中央駅下車すぐ）
問合先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

横浜子育てサポートシステム主催

～女性のカラダ講座～ 更年期を明るく穏やかに乗り越えよう！

女性なら誰しも避けて通れない“更年期”。これから更年期を迎える方も真っ只中の方も、正しい知識と対処法で、明るく穏やかに更年期を乗り越えましょう。
乳がんの触診模型を使ってのセルフチェック方法も体験します。

日　時：１１月１５日（火）　または１１月２９日（火）
　　１０時～１２時　※同内容で２回開催
場　所：港南区福祉保健活動拠点
申　込：１０月１１日　９時より電話にて受付。
　　各日先着 30 名。保育あり（10 名まで）。
問合先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

視覚障害者サポート講座　誘導ボランティア入門

視覚障害のある方を街で見かけたとき、何かお手伝いしたいけどどうしたらいい？と、戸惑ったことはありませんか。ちょっとしたお手伝いから外出の付き添いなど、視覚障害者の支援を広げることを目的とした入門講座です。

日　時：平成 23 年 10 月 23 日（日）
　　１３：３０～１６：００
場　所：港南区福祉保健活動拠点
申　込：１０月１２日より電話にて受付。先着 25 名。
問合・申込先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

男のセカンドライフ大学校
わかる！つかえる！デジカメ撮影講座～入門編～

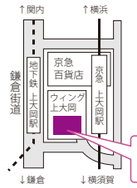
カメラだから見える！新しい世界を感じましょう。
撮影の心構えやコツ・デジカメの基本知識を学びます。

日　時：１２月２２日（木）　９：３０～１２：３０
場　所：港南区福祉保健活動拠点
対　象：おおむね 55 歳以上の男性
持ち物：お持ちのデジタルカメラ・取扱説明書
申　込：１２月１２日より電話にて受付。先着 40 名。
問合・申込先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

あおぞらコンサート

ご好評いただいた沖縄の三線と歌を今年もお届けします。挽き立てのコーヒーを飲みながら、ゆったりした時間をお楽しみください。

日　時：１１月５日（土）13：00~14：00
ゲスト：金子るい氏
場　所：ふれあいショップあおぞら
参加費：５００円（ケーキセット代として）
申　込：事前に TEL。先着 30 名。
問合・申込先：ふれあいショップあおぞら（TEL８４７－５１２２）



スタッフ一同、
笑顔でお待ちして
おります。
あおぞら
TEL&FAX 045－847－5122
オフィスタワー 4F
ウィリング横浜フロント前
＊10：30～18：00
＊日曜・祝日定休日

お詫びと訂正　全戸配布資料「共同募金 2011 港南区だより」

10 月 1 日から始まります赤い羽根共同募金運動に先立ち、各ご家庭に配布させていただいた『共同募金 2011 港南区だより』に誤りがございました。謹んでお詫びさせていただくとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

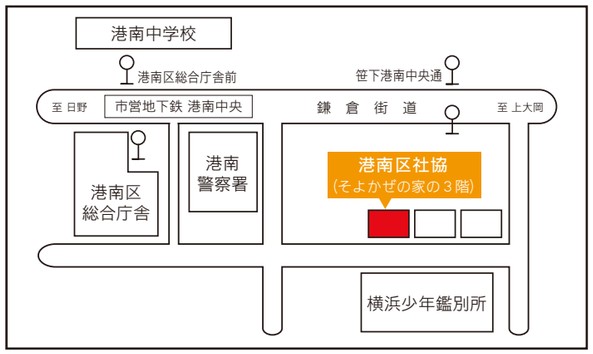
［本文二行目］　誤：平成２１年度共同募金寄付金総額
　　正：平成２２年度共同募金寄付金総額

●港南区社会福祉協議会では、事業計画・報告並びに収支予算・決算についてホームページに掲載しております。また冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。

社会福祉法人
横浜市港南区社会福祉協議会
（港南区ボランティアセンター）
〒233-0003　港南区港南 4-2-8　3 階
（そよかぜの家 3 階）
TEL：045-841-0256　FAX：045-846-4117
URL：http://www.kounan-shakyo.jp/
E-mail：info@kounan-shakyo.jp

港南区社会福祉協議会広報委員
岡本康夫　高柳宣幸　林壽美子　太田由美子　佐藤ふち子
森　修一　村田増江　守　悦子

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています。



社協だより
ボランティアセンター通信合併号
こうなん 62
■発行 / 社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会　■発行責任者 / 清水 鐵夫　■発行日 / 平成 23 年 10 月
横浜市港南区連合町内会長連絡協議会　平成 23 年度　承認第 3 号

頼りになります！ 港南区災害ボランティア ネットワーク！

START

港南区に今年２月 15 日、「港南区災害ボランティアネットワーク」ができました。3.11 東日本大震災では多くのボランティアが活躍しています。ここ横浜で大規模災害が起こった時、港南区復興のために駆けつけたボランティアと支援を必要とする被災者とのつなぎ役のセンターが必要になります。

港南区災害ボランティアネットワークは、いざという時に「災害ボランティアセンター」を円滑に運営することを目指し、安全にボランティアを被災地に送り届けるため、日頃からシミュレーションや研修をしています。

災害発生時のイメージ

災害ボランティアってな～に？

1995 年（平成７年）１月 17 日に発生した阪神淡路大震災では、全国から 100 万人以上のボランティアが駆けつけ「ボランティア元年」という言葉が生まれました。これが「災害ボランティア」の始まりです。

しかし、当時殺到したボランティアたちがうまく機能せず、被災地が混乱しました。その反省から「災害ボランティアセンター」という考え方が出て来ました。実際に、福井・新潟集中豪雨、新潟県中越地震、東日本大震災などでは「災害ボランティアセンター」が立ち上がり、駆けつけたボランティアと被災者の要望を結びつける活動を行っています。

会員募集中　たくさんの方の参加をお待ちしています。

港南区災害ボランティアネットワーク

■毎月第二金曜日　午後１時半～
区社協で定例会を行なっています。

内容は災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営の訓練。
ボランティアをまとめるコーディネーターの育成。
地域防災拠点・自治会・町内会等との連携（防災訓練参加）。
市・他区の研修会に参加など。

■どなたでもいつでも入会できます。

現在、自治会・町内会の方、ボランティア団体の方、それ以外の災害ボランティアネットワークに関心のある方などが会員として活動しています。お気軽に事務局（港南区社会福祉協議会）まで、お問い合わせください。

クイズ&アンケート大募集！

抽選で１０名様に
図書カードをプレゼント！

「港南区災害ボランティアネットワーク」が
スタートしたのは、平成２３年○月○日でしょうか？

■**応募方法**：①クイズの答え　②ご意見・ご感想　③社協だよりを手に入れた場所　④氏名・〒・住所・ＴＥＬ・性別・年齢をご記入のうえ、はがき・ＦＡＸ・Ｅメールにて、１１月３０日（水）必着でお送りください。（当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます）
■**送付・問合先**：港南区社会福祉協議会（裏表紙参照）

インタビュー

“助けてほしい”と“力になりたい”を橋渡し

災ボラネットとは？ 平山代表に聞きました！

港南区災害ボランティアネットワーク代表　平山文也

港南区永野連合町内会 会長
丸山台中学校 地域防災拠点運営委員会 委員長

きっかけは？

区社協の呼びかけで連絡会として、当初 10 名ほどでスタートしました。３年間の準備期間を経て、今年２月 15 日に組織を立ち上げることができ、ホッとしています。防災のためには、自助（自分で守る）・共助（地域で助け合う）・公助（行政機関等の支援）が必要だと言われています。これに遠くから来た人が助ける“遠助”を加えたい。

災害ボランティアネットワーク（以下「災ボラネット」）は遠くから来た人を受け入れ、各自治会・町内会に安全に派遣し、地域防災拠点を助ける方法を勉強しています。

港南区の特徴は？

会員は女性が多いです。若い人もいるので期待しています。いろんな分野の人が参加しているので、人材は豊かだと思います。

どんな人に参加して欲しいか？

どんな人でも大歓迎です。遠くから来る人を気持ちよく受け入れ、快く送り出せる人。経験や知識は必要ありません。

港南区民 22 万人に対応できる組織を作るには 100 人以上は必要かな。

未来に向けては？

今、地震が起きて、全国から来た人を“どこに行ってもらうか”自治会・町内会・地域防災拠点との“顔が見える”関係を目指しています。“災ボラネットは何か良いことをしてくれそうだ”と考えてもらえるようにしたい。

区民の皆さんへ伝えたいことは？

じゃんじゃん災ボラネットに入ってください。地域防災拠点での訓練等に駆けつけ、デモンストレーションをしますので呼んでください。

災害は、いつ起こるか分からないので、息の長い活動です。港南区に災ボラネットがあることを知ってほしいです。

災害ボランティアセンター Q&A

Q1 開設されるのはどんな時？

A 災害時には、被害状況を見て、ボランティア協力の要否を判断し、運営側がボランティアを受け入れられる体制が整った時点でボランティアセンターが開設されます。
ここ港南区では、「港南区災害ボランティアセンター」が設置され、港南区役所・地域防災拠点・区災害ボランティアネットワークと連携し、港南区社会福祉協議会が主体となり運営されます。（表紙の図参照）

Q2 なぜ必要なの？

A 被災地での生活や復興支援のために駆けつけて来たボランティアを受け入れ、効果的な活動が出来るように“橋渡し役”をする拠点として「災害ボランティアセンター」が必要になります。

Q3 どこに設置されるの？

A 港南区福祉保健活動拠点内（港南区社会福祉協議会）に設置されます。被害状況によっては、屋外の安全な場所に設置されます。

Q4 何をするの？

A 地元被災地からの救援要望（ニーズ）に応じて、全国・地元から駆けつけたボランティアを調整し、効率よく派遣する作業を行います。

Q5 ボランティア派遣は個人でも頼めるの？

A 他県でこれまでに立ち上がっているボランティアセンターでは、個人からの依頼も受け付けています。でも危険を伴う依頼や専門技術を伴う場合は、対応できないこともあります。

ボランティア活動保険の加入について

被災地へボランティア活動に行かれる前に、全社協が実施しているボランティア活動保険（天災タイプ）への加入をお願いしています。個人でも加入でき、ボランティア活動中の様々な事故によるケガや損害賠償責任、活動場所と自宅との往復途上の事故、ボランティア自身の食中毒や感染症、地震・噴火・津波によるケガも補償されます。
詳しくは、港南区社会福祉協議会（電話８４１－０２５６）にお問い合わせください。

現地での安心は行く前に準備

○**補償期間**：１年間
（4月1日～3月31日の年度単位）

○**年　　額**：天災Ａタイプ ４９０円/１名
天災Ｂタイプ ７２０円/１名

○**窓口受付**：港南区社会福祉協議会
月～土/９：００～２１：００
日・祝/９：００～１７：００

インタビュー

被災地で活動したボランティアの想い

３月に地震や津波の被害にあった東北地方で、瓦礫を片付けたり、避難所にいる人たちのお世話をしたりと、災害ボランティアとして被災地での「力になりたい」と活動されたＴさん・Ｋさんにインタビューをしました。

励まされた“来てくれてありがとう”の言葉　Tさん　40代

被災地在住（南相馬市）の両親がいることがきっかけでした。初めは個人で、その後は神奈川災害ボランティアネットワークを通じて団体活動をしています。

最初、南相馬市では現地の災害ボランティアセンターを通じて、体育館から支援物資の搬入と世帯ごとに配る袋詰めの作業をしました。人手不足による作業の遅れもあり、とても心配になりました。支援物資を送る際には品物名・数を明記する、食品と衣類を分ける必要性を感じました。他に、耕作地のガラス片除去や灯籠流しをする川の清掃などをしました。瓦礫撤去には人手が必要でした。ボランティアにとって、現地の災害ボランティアセンターは“安心できる場所”でした。

３ヶ月程たった被災地は、避難所を出て仮設住宅に移るなど、被災者の生活環境は変化していましたが、現場の状況にあまり変化はないように思いました。道路は整備されていますが、津波をかぶった瓦礫は塩分を含んでいるため、焼却できず、粉砕し、積み置き状態のままでした。大槌町のある保育園は、高台の仮設で運営していました。避難で園児数も半減しているが、「必ずみんなここ（元の保育園）に帰ってくる」と話された園長先生の力強い眼差しが印象的でした。地元の方々の感謝の言葉「来てくれてありがとう」と“もてなしの心”が本当に身に染みました。

大切なことは“自分の身は自分で守る”　Kさん　60代

きっかけは、新潟県中越地震や他での災害ボランティア活動の経験があったこと、定年を迎え、自由な時間が取れるようになったこと、また、横浜移動サービス協議会に所属しており、協議会経由で派遣依頼があったことです。

石巻市で約一カ月間、福祉車両で避難所から病院へ、病院から避難所へと患者さんだけでなく、看護師さんの移送もし、農家で宿泊のお世話になりました。通院送迎も落ち着いた後は、泥出しのボランティアもしました。また、入浴場、スーパーへの買い物、火葬場への送迎もしました。

想定外の大災害であったことから、交通手段は車しかなく、道路事情が分からない中、自力で道を調べるしかありませんでした。現地への往復も車での移動なので、ガソリンの補給に苦労しました。４月初旬の最大余震に現地で遭遇した時は、縦揺れが激しく、大きな地鳴りも聞こえ、安全な場所に避難しました。

ボランティアとして現地に行く際、最低限必要な準備は、宿泊方法・水・食料・地図などです。また、被災者の心情に配慮することも必要です。団体活動で動く場合、団体だからどうにかなるだろうという考えは捨ててください。災害は誰の身にも降りかかります。人を助ける前に自分の身を守ることが大切です。